

としょかんNEWS 第118号



～新春特大号～

2017年1月18日
湘北短期大学図書館

学生選書ツアー参加者募集

学生選書ツアー【第25弾】を下記の要領で実施いたします。“学生選書ツアー”とは、湘北在學生が湘北短期大学図書館にあったらいいなと思う本や友達にオススメしたい本を、実際に書店に行ってみつけてくるという企画です。また、“学生選書ツアー”に参加していただいた皆さんには、選んだ本の紹介ポップの作成など展示コーナーのプロデュースにも参画していただきます。参加者全員に湘北ポイント100ptとさるーちオリジナル卓上カレンダーのプレゼントもあります。是非ご参加ください。

- 日程:2月2日(木)
- 時間:10:00～12:00
- 場所:有隣堂 厚木店

● 注意事項

- (1) 選書の時間は限られていますので、下調べをしてから参加してください。事前に選んだ本のリストなどを当日持参することをお勧めします。
- (2) 選書ツアー終了後に、それぞれが選んだ本を紹介するポップを2点程度作っていただきます。選んだ本については、特別貸出が可能です(冊数制限なし)。
- (3) 選書冊数は、一人20冊を目安としてください。ただし、厳密に何冊までという決まりがあるわけではありませんので冊数を越えてしまう場合には、ご相談ください。
- (4) マンガや雑誌、シリーズ(多巻)ものは、対象外となります。ケータイ小説、タレント・ミュージシャン・スポーツ選手などの本、ドラマ・映画のノベライズは一人1冊までとなります。同じテーマの本を複数冊購入することはできません。多くの学生に利用してもらえるような本を選びましょう。



QRコードを読み取って
スマートフォンからも
申込みができます！

● 申込方法

申込みフォーム(<http://goo.gl/forms/1gPElgSYiI>)よりお申し込みください。
申込期限は、1月23日(月)となります。
詳細については、追ってE-mailにてご連絡いたします。

新企画「本の名は」～私を変えた1冊～ 投稿募集！

“本との出会いで新たな目標ができた、日常生活が変わった、発見があった・・・”といったことはありませんか？そんな本をこの「としょかん NEWS」や twitter で紹介する新企画です。皆さんの本紹介の一文(つぶやき)を、つぶやいた方のイニシャル(例:HT)をつけて紹介します。図書館2階カウンターに提出BOXを設置しますので、ふるって投稿をお願いします。お待ちしております！

「本の名は」～私を変えた1冊～

10年ぶりにやった編み物、ハマってしまった。一気に帽子を2つ作成。我ながらすごい！(HT)
…その本は(裏面へ)

さぼーち倶楽部、活動報告

● クリスマスパティーで、第14回ビブリオバトル開催！

さぼーち倶楽部が12月5日(月)に恒例のクリスマスパーティーを行い、その中で第14回ビブリオバトルを開催しました。さぼ部7名と図書館職員2名が参加し、持ち寄った本を紹介、ディスカッションを行いました。上位の3冊は同票で接戦！盛り上がりました。決選投票でチャンプ本は『桐島、部活やめるってよ』に決定。ビブリオバトルのあとは、クリスマスケーキを食べながら懇親会で盛り上がりました。

第14回ビブリオバトル「チャンプ本」発表！

参加者全員で投票した結果、下記のとおりチャンプ本が決まりました。
★朝井リョウ著『桐島、部活やめるってよ』—Hさん(B1)



【連載】リレーエッセイ(36) 人生を変えた1冊 生活プロフェッショナル学科 水上 裕

ちょうど1年前の1月14日、国際文化会館(六本木)に於いて「石井和紘先生を偲ぶ会」が催された。スピーチで登壇した建築家の槇文彦さんから「石井さんにはもっと本を書いて建築や建築界を批判し、刺激して欲しかった」との言葉があった。石井さんの並々ならぬ建築への情熱、批判精神、洞察力、そして文章技術は実に見事で、私も同感だった。

さかのぼること30年前、私は石井和紘建築研究所のスタッフで朝9時より終電に間に合う0時まで、休日返上は日常茶飯事で建築設計・研究に明け暮れていた。歴史に残る建築を創り出すことに夢中で、それらの建築作品は雑誌や新聞でも話題となり、手応えを感じるとともに純粋な浪漫があった。

石井さんとの出会いは1冊の本『イエール建築 通勤留学』(鹿島出版会、1977年)である。その本に感銘し、感想とポートフォリオを見て欲しい旨の手紙を送った。今思えばポートフォリオと呼ぶほどの作品ではなかったが、ともあれ、それをきっかけに交流が始まり、その後石井さんから電話で「チャールズ・ムーア特集の企画が決まったから手伝いにこないか」

そんなお誘いを受けた。C・ムーア 60歳のパーティ会場からの国際電話で、私は別の設計事務所で修行中にもかかわらず休職の許可を得て渡米した。

特に編集も英語もできるわけではなかったが、とりあえず「C・ムーア アトリエ 通勤遊学」となった。膨大なスライドとスケッチの一部を選んでお借りする傍らスタッフとして模型製作を手伝う幸せな日々であった。東京に戻ると雑誌『SD(スペースデザイン)』1986年11月号のC・ムーア特集自体は編集のプロにお任せし、そのままわらじを脱いではどうかとのお誘いで石井和紘建築研究所にしばらく在籍することとなったのである。

その後もいろいろな縁で設計活動と教育活動を並行させていたが、20年前から比重を教育に移し現職に至っている。

あの頃身につけた、批判をもって考えを深め、新しいものを生み出す精神は今も持ち続け、教育・研究・社会貢献活動に生かしている。そして、2017年2月『インテリア・ガール』を上梓する。発行は鹿島出版会、不思議なめぐりあわせである。